

第 3 回千葉県工業用水道事業中期経営計画に関する懇談会 開催結果概要

1 開催日時

平成 27 年 9 月 29 日（火） 午後 2 時から 4 時まで

2 開催場所

千葉市美浜区中瀬 1-3

幕張テクノガーデン 貸会議室 D-1402 号室

3 議題

（仮称）「施設更新・耐震化長期計画」（素案）について

4 主な発言要旨

構成員

40 年という非常に長期な計画であるので、計画のモニタリングや事業評価などのチェック体制が必要である。

企業債残高が相当残っているので、資本的収支と損益収支とのバランスを取る意味でも料金についての増収策を検討すべきである。

京葉臨海工業地域の重要性及び工業用水が担ってきた役割をもっとアピールし、計画に記載した方がいい。

本県は、首都圏に位置し、成田空港、世界の原材料を輸入できる千葉港を有するなど非常にポテンシャルが高く、今後海外からの工場進出の可能性も有り得るので、計画ではあまりダウンサイジングにこだわらずに、現状維持を前面に出した計画にしていただきたい。

事務局

計画のモニタリングやチェック体制など計画の進行管理について追記したい。

また、京葉臨海工業地域の重要性及び工業用水が担ってきた役割については、非常に重要なことと考えており、計画の背景や目的に加えたい。

土地会計からの出資を検討しているところであり、この出資を活用しながら、資金不足や増大する長期債務について一定の効果を発揮できる形を考えていきたい。

構成員

40 年という長いスパンの計画であるので、事業規模について柔軟な見直しができる計画にしていただきたい。

料金上げがやむを得ない場合は仕方がなく、累積資金がプラスになる方向で検討願いたい。

千葉地区の平成40年から44年の設定料金が下がっており平準化が図られていない。

事務局

計画の見直しについては、進行管理の中で柔軟な対応ができるようにしたいと考えている。
千葉地区の指摘のあった設定料金については、平準化するよう修正したい。

構成員

基準年数で一律に更新するのではなく、耐震補強するなど延命化を図っていただきたい。
現在、工事費の上昇が見られる中で、今後、計画の事業費が増加することのないように検討していただきたい。

事務局

具体的な事業内容を定める中期経営計画策定の中で、耐震補強や修繕等で対応できるものは延命化を図りたい。

事業費については、できるだけコスト縮減を図りたい。なお、今回提示した事業費はデフレターを見ていない。

構成員

土木構造物、特にコンクリート構造物の更新については、平準化するために劣化していないものを更新してしまうことがこの計画に含まれていると思うので、そこを何とか一工夫できないかと考える。

構成員

コンクリートが何年持つのかは非常に難しい課題である。

事務局

土木構造物については、更新基準年数を90年で考えているが、平準化の関係で年数は前後している。本計画の中では老朽化より耐震化を優先して考えているが、土木構造物53施設のうち8施設について詳細診断を実施しただけなので、今後、実際に工事を実施するに当たっては残りの施設の詳細診断を行い、その中で更新なのか、耐震補強なのか検討していきたい。

構成員

最大給水量を確保する施設規模とはどの値を設定しているのか、また、最大給水量を超える施設規模については、更新しないで補修で対応するという計画になっているのか、説明していただきたい。

優先順位の考え方やレベル2地震が起きた場合の影響等についての検証を示していただき

たい。

事務局

最大給水量は、現在の最大給水量を基に考えており、水処理工程が2系統ある施設については、合わせて最大給水量を確保したいと考えている。まず、1系統を更新し、次の1系統を更新するのか、耐震補強か、修繕等に対応するのかは、その時の需要等を勘案し弾力的に対応したいと考えている。

優先順位については補足説明を入れたいと思う。レベル2地震の影響についても検討していきたいと考えている。

構成員

国が製造業の今後の方向性についてビジョンを示していただければ、受水企業や工業用水道事業者も将来の方向性というものが見えてくるのではないかと、工業用水道政策小委員会の中で議論していただければと思う。

構成員

工業用水道事業により、産業が発展し、県財政も貢献し、さらに夢のある未来への展望が開ける、そのような計画を策定することが大事かなと思う。

これからは、白紙のところに計画をたて施設をつくるのではなく、既存の施設を運用しつつ、しかも24時間1日たりとも止めることができない状態で新たな施設をつくらなければならない。さらに、将来の不確実性に対しても柔軟に対応できるような計画とすることが大事と思う。まずは1系統つくってみる、その後の状況によって2系統目をどうするかを判断するという考え方は評価したい。

管路についても、大口径管をパイプインパイプでやるのか、バイパス手段を講じるのか、そういったことも考えなければならない。

まずは、こうした計画を作って考える。机上の空論とすることなく、千葉県が発展するような形で、工業用水道が循環的に更新されていく流れになればと思っている。